

# 奈良県議会海外調査報告書

調査日時 : 平成26年5月25日～30日

調査先 : トルコ共和国

## 【調査訪問団】

奈良県議会議員	小泉 米造 (自由民主党改革)
	中村 昭 ( " )
	粒谷 友示 ( " )
	奥山 博康 ( " )

○調査を必要とする政策課題

- ◆歴史遺産と観光行政の課題について
- ◆京奈和自動車道等のトンネル道路工事における歴史遺産保護についての課題  
(ボスポラス海峡横断地下鉄整備事業を参考に歴史遺産保護を考える。)

○調査項目

- ◆シルクロードの拠点であるトルコの歴史的遺産の活用とその観光行政
- ◆ボスポラス海峡横断鉄道トンネル貫通工事に伴う、歴史的遺産の保護について  
～京奈和自動車道等、道路工事に係る歴史的遺産の保護を考える～
- ◆友好交流の大切さについて(メルシン市と串本町の友好関係から)

○視察先

- ①世界遺産岩石遺跡群(ギョレメ国立公園)
- ②カイマクル地下都市
- ③ボスポラス海峡横断地下鉄整備事業
- ④メルシン市庁

**【事前研修】**

○調査に参加する議員メンバーで計4回の事前研修を実施した。

- ◆海外調査全行程についての勉強会  
(平成26年4月21日・4月23日)
- ◆大成建設大阪支社に依頼し、ボスポラス海底トンネル工事について研修  
(平成26年5月9日)
- ◆大成建設小山文男氏(元ボスポラス海底トンネル工事作業所所長)からレクチャーを受ける  
(平成26年5月21日)

# 調査の全体行程 スケジュール

日	月日(曜)	地 名	現地時刻	交通機関	スケジュール (宿泊地)	食 事
1	5月25日 (日)	関西国際空港発	22:30	TK47	空路、イスタンブールへ (機 中)	夕:
2	5月26日 (月)	イスタンブール着 イスタンブール発 カイセリ着	05:35 06:55 08:15	TK2010 専用車	到着後、国内線乗換えにてカイセリへ 空路、カイセリへ カイセリ到着後、専用車にてカッパドキアへ 到着後、市内視察 (カッパドキア)	朝: 機 内 昼: 夕:
3	5月27日 (火)	カイセリ発 イスタンブール着	14:30 16:05	専用車 TK2013 専用車	カイマクル地下都市視察 終了後、カイセリへ 空路、イスタンブールへ 到着後、イスタンブール市内視察 (イスタンブール)	朝: ホテル 昼: 夕:
4	5月28日 (水)	イスタンブール		専用車 地下鉄	ボスポラス海峡横断地下鉄整備事業視察 午前: 旧市街からボスポラス海峡を地下鉄で移動 ※「カ」駅〜「カ」駅※約10分 午後: 大成建設より地下鉄整備事業講義 (イスタンブール)	朝: ホテル 昼: 夕:
5	5月29日 (木)	イスタンブール発 アダナ着  アダナ発 イスタンブール着	09:00 10:35  16:05 17:45	専用車 TK2458 専用車  TK2463	空港へ 空路、アダナへ 到着後メルシン市役所視察訪問  空路、イスタンブールへ (機 中)	朝: ホテル 昼: 夕:
6	5月30日 (金)	イスタンブール発 関西国際空港着	00:50 17:55	TK46	空路、大阪へ 入国後、解散	朝: 機 内 昼: 機 内

# 視察先の報告① 世界遺産岩石遺跡群(カッパドキア) <ギョレメ国立公園>

訪問日:5月26日(月) 於:トルコ共和国 ギョレメ地方

訪問先:世界遺産岩石遺跡群(カッパドキア)

ギョレメ野外博物館研究員によるレクチャーと案内を受ける。

(南北約50kmに広がるエリア内に、キノコ岩や様々な色をした岩肌などの自然美と、紀元前からの文明の遺跡などが数多く点在。世界的に有名な一大観光地となっており多くの観光客が訪れる。)

## <世界遺産岩石遺跡群(カッパドキア)視察の概要>

### ◆歴史的遺産の活用と観光産業

カッパドキア地方のギョレメ国立公園と岩石遺跡群は世界遺産に登録されている。ギョレメとその周辺はローマ時代、ベネッサの住民らにネクロポリス(墓地)として使用されていたと考えられている。

カッパドキアは100km近くにわたって岩石地帯が広がり、キノコや煙突のような形の奇岩が林立し、巨岩がそびえるその景観は自然の驚異と言える。カッパドキアの熱気球を活用した観光は絶賛に値し、数多くの洞窟を利用して建築した洞窟ホテルは地形をそのまま利用し観光客に人気である。ギョレメ野外博物館研究員から世界遺産の保護と活用についてのレクチャーを受け、県内の景観地の保護と活用についての示唆を受けた。



世界遺産 カッパドキア

日本では、奈良県香芝市の屯鶴峯がカッパドキアに似ていることで有名である。

屯鶴峯は二上山火山群の雄峯で、二上山の火山岩屑が水底に沈積して凝灰岩層となり、その隆起と風化水蝕により奇岩・奇勝となったものである。

直立した谷壁の地肌には地層の切口が小波のような美しい皺を現し、学術上貴重な資料であるばかりでなく、周囲は樹木に覆われた山々に囲まれて特異な別天地を感じさせ、奇勝の名にふさわしいところである。また一帯には戦時中の防空壕が残っている。

屯鶴峯も小規模ながら日本のカッパドキアとして、また金剛生駒紀泉国定公園の金剛葛城山系の稜線を縦走する長距離自然歩道(ダイヤモンドトレイル)の出発点として、景観・自然・防空壕等をPRすることにより素晴らしい観光資源として全国に発信できると考える。



県天然記念物 屯鶴峯(香芝市)

## 視察先の報告② カイマクル地下都市

訪問日：5月27日(火) 於：トルコ共和国 ギョレメ地方

訪問先：カイマクル地下都市

カイマクル地下都市保全管理事務所所員によるレクチャーを受ける。

(歴史的遺産であるカイマクル地下都市の活用による観光産業を学ぶ)

### <世界遺産カイマクル地下都市視察の概要>

#### ◆歴史的遺産の活用と観光産業

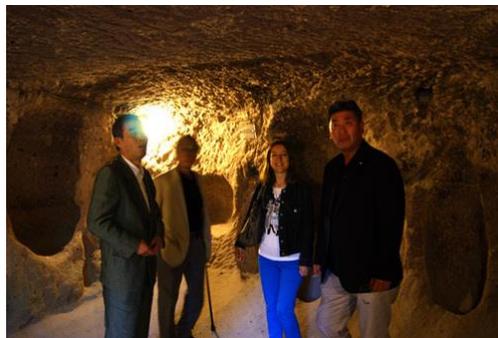
巨大な地下都市カイマクルは、この地域にいくつか見られる他の地下都市と同じようにイスラム教徒による迫害から逃れるためにキリスト教徒が隠れ住んでいた都市である。

安全のために地下深く家を作り、トンネルでつないで生活していたとのことで、地下都市は地下8階まであり(現在見学は4階まで)深い所は20mにもなるとのことである。生活する上で一番重要な換気は全く問題なく、絶えず新鮮な空気が流れ込むように換気口が設けられている構造には驚かされた。

カイマクル地下都市保全管理事務所所員によると、当時は約5千人もの人が住んでいたそうで、貯水池、台所、食糧庫、井戸、換気口、教会などが備えられ地下1階は家畜のための場所となっていたそうである。

トルコの観光産業は、1982年以降観光産業を育てる法整備により、急速に発展したとのことで、外国人観光客は1980年の128万人から2013年は3,500万人に増加したとのことである。

奈良を訪れた外国人は2012年は28万5千人だったが、2013年は45万6千人に増加している。2014年も大幅に増える予測とのことであるが、今年度開催した「大古事記展」のように自治体が積極的にイニシアティブを取ることが重要と考える。



世界遺産カイマクル地下都市を視察

トルコ文化観光省は「トルコの観光新戦略」の一環として、比類ない自然、観光施設、交通の便利さ、豊かな文化遺産などを紹介することでトルコのイメージアップを図り、時間をかけて確固とした観光国にすることを目指してきたとのことである。神秘的で魅力的な自然と複合的で多様な歴史・文化を併せ持つトルコの特長は、本県に相通じるものがある。奈良県には世界遺産が3つもあるほか、国宝・重要文化財や未だ調査をされていない埋蔵文化財が多々あると考えられている。また、南北に長い地形と山岳地方と平地の高低差から成る豊かな自然が残っており鍾乳洞や奇岩群のほか希少な生物も多数生息・生育している。

本県の歴史的資産の活用と観光振興の促進については、文化財を地域振興や観光資源に一層活用するための背策を行うほか、観光振興の多様化のために、山岳信仰、温泉、登山、高原、洞窟、トレッキング、フィッシング、ハンティング、バードウォッチング、エコツーリズム、グリーンツーリズムなどの数多くの企画が積極的に進められることが必要と考える。

# 視察先の報告③ ボスポラス海峡横断地下鉄整備事業

訪問日：5月28日(水) 於：トルコ共和国 イスタンブール

訪問先：大成建設(株)JV現地管理事務所(イスタンブール)

現地管理事務所に滞在している大成建設(株)の鈴木氏よりレクチャーと案内を受ける。

(地下鉄シルケジ駅～ウスクダル駅～イエニカプ駅<現地視察>)

## <ボスポラス海峡横断地下鉄整備事業視察の概要>

○管理事務所に滞在している大成建設(株)工事作業所工場長の鈴木氏からマルマライ計画(ボスポラス海峡横断トンネル・鉄道建設計画)の概要説明を受けたあと、現地視察先を訪問した。

◆ボスポラス海峡横断地下鉄トンネル貫通工事に伴う遺跡の保護について  
～京奈和自動車道トンネル工事推進等への端緒をつかむ～

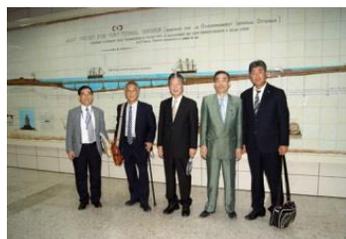


鈴木氏のレクチャーを受ける

ボスポラス海峡の全長は約30km。道路橋は、第1ボスポラス大橋とアーティフ・スルタン・メフメト橋の2つだけで大渋滞していた。フェリーでの移動は30分近くかかり、慢性的な交通渋滞と排気ガスによる大気汚染が深刻化していた。

このためトルコ政府は大量輸送交通手段としてボスポラス海峡横断地下鉄の事業化を決定し、2013年10月に鉄道開通により、海峡間の移動が4分へと大幅に短縮され、地下鉄への利用が増えることで、大気汚染等の緩和が期待されている。

鈴木氏の案内でまずシルケジ駅に行き、そこから地下鉄に乗ってウスクダル駅に向かった。シルケジ駅はヨーロッパ側、ウスクダル駅はアジア側にある。ボスポラス海峡横断地下鉄はアジアとヨーロッパを結ぶ海底トンネルを建設することは「トルコ150年の夢」と言われており、その夢が実現することとなった。アジアとヨーロッパが今まで以上に人・モノ・文化の交流が盛んになることは明らかである。



ウスクダル駅構内には、困難を極めた工事を説明するパネルが展示されている。

視察の最後には、ヨーロッパ側のイエニカプ駅へ向かい、工事中に出土した遺跡の保存等について説明を受けた。工事は2010年の時点で2年以上の遅れが発生しており、これはイエニカプ駅予定地でビザンチン帝国時代の遺跡が発見されたことによる。その後、ビザンチン帝国初期～オスマントルコ帝国時代末期までのものが次々に出て来た。こうした歴史的な遺跡発見のため、工事は一時中断。発掘作業が行われていたため、実際の開通が予定よりおよそ4年遅れたとのことだった。



イエニカプ駅構内には、駅舎建設時に出土した遺物の模型が展示されている。

本調査により、文化財や歴史的遺産の保存と活用について、京奈和自動車道地下トンネルであっても、問題なく推進できることを確信した。

ボスポラス海峡の厳しい自然環境のための工法変更や4つの駅建設にかかる歴史的な文化財の発掘・保存やそのための軌道変更により、56ヶ月の工期が110ヶ月に変更になり、工事費も1,023億円から約1,500億円に増額となった。しかし結果的には、それ以上の経済効果が見込めることは明らかである。

イエニカプ駅遺跡保存現場



## 視察先の報告④ メルシン市

訪問日:5月29日(木) 於:トルコ共和国 メルシン市内

訪問先:メルシン市庁ほか

ハルク・テウンチュス副市長と日本とトルコの友好等について会談する。

(トルコ人が日土友好の歴史を語る時、必ずエルトゥールル号事件が持ち出される。過去の交流が今なお日本とトルコの友好関係に大きく寄与している。)

### <メルシン市内視察の概要>

○エルトゥールル号遭難事件に端を発する日本とトルコの友好関係

1890年(明治23年)9月16日、オスマン帝国(一部が現在のトルコ)の船が、和歌山県串本町沖で沈没し、500名以上が犠牲となった。

このとき、地元民たちが必死の救護活動を行い、大日本帝国政府も動いて69人の生還者を祖国へ送り返すことができた。これが日本とトルコの友好関係の始まりと言われている。現在、串本町の檜野崎灯台のそばには慰霊碑とトルコ記念館が建っている。トルコではメルシン市に慰霊碑が建立され、5年に一度、追悼式典が行われている。2008年には大統領が初めて式典に出席し、献花を行ったとのことである。



メルシン市の海難慰霊碑

◆メルシン市庁訪問(メルシン市と串本町の友好関係を聴取)

メルシン市庁内でハルク・テウンチュス副市長と会談し、エルトゥールル号事件の歴史認識や友好姉妹都市和歌山県串本町との関係・今後の取り組みなどをご教示いただいた。

トルコ人が日本とトルコの歴史を語る時、必ずエルトゥールル号事件が上がるということで、日本国、特に和歌山県串本町には今でも感謝をし、尊敬の念を抱いているとのことであった。また、トルコには『近くに草がなければ往来がある』ということわざがあり、人の交流があれば草も生えている間がないという意味とのこと。

日本とトルコの交流の歴史を目の当たりにし、交流や友好の重みを認識したところである。また、メルシン市と串本町の交流のすばらしさを聴取し地方自治体同士の交流の大切さを実感した。



テウンチュス副市長と会談